

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 学年	2 単位	必修
担当教員			
座間味 愛理			

**講義概要**  
 現代の日本では、都市化による地域の変化、女性の社会進出に伴う家族の在り方の変化、核家族や少子化など保育をとりまく社会環境は大きく変わり、「子育て支援」への関心が高まっています。保育者はそのような社会背景を理解し、子ども理解と子育てに関わる親への支援、地域との連携、保育者のメンタルヘルスなどについて学んでいく必要があります。  
 本講義では保育者の資質として必要な教育相談（カウンセリングマインド）の必要性について理解し、保育実践の今日的課題に向き合うための基本的知識、子育てに関する教育相談（カウンセリング）理論・技法・応用について学んでいきます。

<b>授業計画</b>	<p>第1回 保育・教育相談、カウンセリングマインドとは何か（第1章）                  今現在の自分自身のカウンセリングマインドについて測定する（授業前）                  学習課題 復習：シラバス内容の確認、教科書10～17ページ                  予習：子どもの発達（乳児期）の確認、アニミズム、自己中心性とは何か</p> <p>第2回 保育・教育相談を行うための発達理解（第2章）                  発達の標準を理解していると安心して援助することができる                  学習課題 復習：教科書18～31ページ                  予習：アセスメントという用語について調べる</p> <p>第3回 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ（第5章）                  学習課題 復習：教科書61～71ページ、演習①（傾聴）                  予習：誰かに話を聞いてもらいたいと思う時のエピソードを振り返る</p> <p>第4回 保育現場でのカウンセリング技法の活用（第6章）                  学習課題 復習：教科書72～85ページ、演習②（カウンセリング技法：受容、繰り返し、明確化、支持、質問）                  予習：誰かに話を聞いてもらった時の感情を振り返る</p> <p>第5回 保育者の専門性と相談援助（第8章）                  学習課題 復習：教科書99～109ページ、                  予習：子どもの頃のケンカについて振り返る</p> <p>第6回 事例理解①子ども同士のいざこざ                  学習課題 復習：教科書126～129ページ、ケースシート①の作成                  予習：社会性の発達について確認</p> <p>第7回 事例理解②仲間に入れられない子ども                  学習課題 復習：教科書130～133ページ、ケースシート②の作成                  予習：自己制御について確認</p> <p>第8回 事例理解③すぐに暴力を振るう子ども                  学習課題 復習：教科書134～137ページ、ケースシート③の作成                  予習：登園拒否について確認</p> <p>第9回 事例理解④不登園の子ども                  学習課題 復習：教科書138～141ページ、ケースシート④の作成                  予習：虐待、気になる子の定義、用語について確認</p> <p>第10回 事例理解⑤虐待が疑われる子ども、その他事例を参照                  学習課題 復習：教科書142～161ページ、ケースシート⑤の作成                  予習：これまでに作成したケースシートの振り返り</p> <p>第11回 模擬ケース検討会議（1回目）                  グループとケースの決定、内容について会議する                  学習課題 復習：教科書第7章、第8章 演習③ケース会議                  予習：役割の再確認</p> <p>第12回 模擬ケース検討会議（2回目）                  グループでケースについて共有し、理解と対応方針をまとめる                  学習課題 復習：教科書第7章、第8章 演習④ケース会議                  予習：役割の再確認</p> <p>第13回 ケース対応実践・発表（1回目）                  会議での内容を踏まえ、グループ発表をする。                  学習課題 復習：評価項目と到達目標を再設定                  予習：担当グループは発表準備</p> <p>第14回 ケース対応実践・発表（2回目）                  発表材料を整理し、グループ発表をする。                  学習課題 復習：評価項目と到達目標を再設定                  予習：担当グループは発表準備</p> <p>第15回 ケース対応事例の発表と評価                  今現在の自分自身のカウンセリングマインドについて測定する（授業後）                  学習課題 復習：各グループの発表内容と対応を整理する</p>
-------------	--

<b>授業形態</b>	講義
<b>評価の観点、評価手段・方法、評価比率</b>	評価の観点 評価手段・方法 評 比率

	<p>関心・意欲・態度 保育現場で必要とする協働する態度、チームで課題に取り組む意欲を維持できる。 ・授業態度 10%</p> <p>知識・理解 保育・教育相談の意義を理解し、幼児理解と支援、カウンセリングマインドの重要性について理解できる。 ・確認テスト 10%</p> <p>思考・判断 カウンセリングマインドを用いた子どもの理解と保育者の役割について考え、適切な対応を判断できる。 ・ケースシート 40%</p> <p>技能・表現 カウンセリングマインドを用いた子どもの理解と支援を具現化したロールプレイを通して表現することができる。 ・グループ発表 40%</p>	<p>出 席 受 験 要 件 合 計 100</p>
教科書・参考書	『子どもの理解と保育・教育相談』 小田 豊・秋田喜代美 編 2014 (株)みらい	
履修条件		
履修上の注意		
オフィスアワー	授業の前後で教室、研究室で質問を受け付ける。	
備考・メッセージ	ケースシートの作成の際には教科書の事例をよく読んでおいてください。	